



社会運動と精神世界を架橋する、
時代を超えて読み継がれる元気本



私の人生はもっと輝いているはずなのに、全然輝いていない。

自分の人生のはずなのに、どうして自分のものだという気がしないのだろう。

自分がいてもいなくても、世界は変わらない。ほんとに無力だ。

どうして、気づくといつも不満ばかり言っているのだろう。あいつのせいだとか、社会が悪いとか。

この本はそんなあなたのために書かれています。あなたにはもっともっと輝いてほしい。自分の人生を生きてるんだ！と胸を張ってほしい。他人の不満を言う時間があったら、自分の夢を語りかけてほしい。

そう、この本の著者はかなりのおせっかいな人間です。私が輝いているかどうかなんて、勝手にしてくれよ！と言いたくなる人もいると思います。でもぼくはとてつもなくおせっかいな人間で、本当はもっと生き生きと生きたいと思っているのに、そうはなっていない人を見ると、君にはもっと君らしい人生があるのに！と叫びたくなってしまうのです。

正確に言うと、そんな溢れる思いから、ぼくはこの本を書いたのです。

この本が出版されたのは、一九八九年のこと。もう三十年以上も前のことです。最初にこの本の原稿を書き始めたのは、まだぼくが二十代の学生で、スリランカで「悪魔祓い」のフィールドワークをしているときでした。ぼくの二十代は本当に自己嫌悪と空回りばかりの、悩み多き時間で、しかしスリランカという異国で急に言葉が溢れ出し、「そ

うだったんだ！」と自分の殻が割れるような気づきを得て、この本が書かれたのです。

そう、自分の人生が全然輝いてない、自分の人生だと思えない、自分がいてもいなくても世界は変わらない、無力だ、そしていつも不満ばかり言っている……、それは二十代のぼく自身そのものでした。そしてそんなぼくが、「その原因はここにあつたんだ！」と気づき、「これから前に一歩踏み出していけるぞ〜！」と確信し、「これを友達にも伝えなきゃ！」と書いたのがこの本だったのです。

三十年以上も前に、ひとりの若者が書いた本は過去の世界でしょうか？ いえいえ、読んでいただければ、この本が時代を超えて、あなたの殻を破り、生き生きとしたエネルギーを湧き出させる、フレッシュさに満ちた本だということがわかってもらえると思います。取り上げられているいくつかの事柄にはその時代が刻印されていますが、その時代に真正面から向き合った姿勢を感じていただきたく、文章には一切手を入れませんでした。しかし三十年前のメッセージは今も力強くあなたに届くことでしょう。

私はなぜ輝かないのだろう。なぜ自分の人生を生きている気がしないのだろう。そんな意識は、この本が書かれた後の、新自由主義や成果主義の苛酷な進展、社会のブラック化によって、ますます加速されてきました。だからこそ、この時代にぜひ読んでほしい。そしてこの本の後半に書かれた、三十年前の「希望」が現在の運動にもつながり、大きな流れとなっていることも実感していただければと思います。

あなたが輝くことで、世界も輝く。あなたが自分らしく生きられれば、あなたの仲間も嬉しくなる、そしてみんなも輝きます。そのシンプルで力強いメッセージをぜひ受け取ってほしいと思います。